

高収益作物次期作支援交付金の概要

高収益作物（野菜・花き・果樹・茶）について、次期作（令和2年産）に前向きに取り組む生産者を支援する事業です。（令和2年度 農林水産省補正予算事業）

支援対象となる生産者

令和2年2月～4月の間に高収益作物（野菜、花き、果樹、茶）の出荷実績がある又は廃棄等により出荷できなかった生産者

支援内容 その1

高収益作物の次期作（令和2年産）に前向きな取組として、国が定める取組項目の中から2つ選択して実施する場合、**10aあたり5万円**等の支援を行います。大鰐町農業再生協議会では、**取組み易い以下の2取組を推奨**しています。

【令和2年産において実施する必要がある取組（事務局推奨）】

☑ 「肥料・農薬等の導入」

☞ **肥料・農薬等の導入を行います。**今後、肥料・農薬等の納品書及びほ場ごとに薬剤散布していることがわかる資料（栽培履歴、防除記録、トレーサビリティシート等）を提出いただくこととなりますので、あらかじめご準備願います。

☑ 「労働安全講習会等の受講」

☞ 農作業安全講習会（eラーニング含む）を受講するか、**農林水産省等が公開している農作業安全啓発動画（裏面参照）を視聴**してください。

【支援単価】

①**基本単価 5万円/10a** ※中山間地域等では単価を1割加算

②施設栽培のうち高集約型品目の単価 施設栽培の花き、大葉、わさび：80万円/10a
施設栽培のマンゴー、おうとう、ぶどう：25万円/10a

【対象施設】加温装置（空調装置）又はかん水装置がある施設（いわゆる雨よけハウスは除く）

支援内容 その2

高収益作物の次期作（令和2年産）に向けた下記の①～③のいずれかの取組を行う場合に、**10aあたり2万円**を支援します。

※中山間地域等では単価を1割加算

※2万円/10a × 取組数（3取組（①②③全て）で、最大6万円/10a）

①新たに直販等を行うためのホームページ等の環境整備

☐ 令和2年4月30日以降に、契約栽培や自社で直販サービスを開始するなど、これまで実施していなかった新たな販売ルートを確立する。

②新品種・新技術の導入等に向けた取組

☐ 別表1の新品種について、令和2年4月30日以降に発注し、年度内に導入（植栽）する。
☐ 別表2の新技術について、令和2年4月30日以降、新たに取り組む。

③海外の残留農薬基準への対応又は有機農業・GAP等の取組

☐ 令和2年4月30日以降に、新たに有機JAS認証を取得するか、認証機関に申請をして受理（審査中）されている。
☐ 令和2年4月30日以降に、新たにGAP認証等を取得するか、審査機関と認証取得の受審に係る契約をする。

支援内容 その3

高品質なものを厳選して出荷する取組に対して、取組を行った人数・日数に応じ、**1人・1日あたり2,200円**を支援します。（新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年2月以降、厳選出荷に取組んだ期間が対象となります。）

【対象品目】

花き、茶、施設栽培の大葉、わさび、マンゴー、おうとう及びぶどう

【対象となる取組】

（花きの取組例）フラワーネット張りの調整 / 芽かき・摘花・整枝 / 冷蔵貯蔵等による出荷調整 等
（茶の取組例）被覆作業の実施 / 化粧ならし・遅れ芽除去 / 荒茶の分別製造調整 等

別表1：青森県知事が定める新品種 一覧

No.	品目名	新品種名
1	もも	日川白鳳 / まどか
2	りんご	こまちふじ / 宮美ふじ / 紅ほまれ / ふじチャンピオン / コスモふじ / 三島ふじ
3	西洋なし	リーガル・レッド・コミス

別表2：青森県知事が定める新技術 一覧

品目名	No.	新技術名	導入技術の要件
ながいも (露地栽培)	1	反射シートの利用によるながいも「園試系6」のむかご生産量向上	ながいもの畦間に反射シート(ネオポリンシャイン)を10月末まで展張する。
	2	ながいも高支柱栽培による増収効果	支柱高を2.7mとして栽培
にんにく (露地栽培)	3	にんにくにおけるスピロテトラマト水和剤(モベントフロアブル)によるチュウリップサビダニの防除	収穫予定日から28日前(±5日)と14日前の計2回、モベントフロアブル4,000倍液を10a当たり200~300リットル散布する。
アルストロメリア (施設栽培)	4	赤色LED電照による増収	赤色LED電球を設置し、8月中旬から12月までの期間、電照する。
トルコギキョウ (施設栽培)	5	秋出し(9月~10月)栽培における遮光処理、または短日処理による品質向上・開花抑制	秋出し栽培において白寒冷紗により7月の1か月間、遮光処理、又は、定植後の1か月間遮光資材により短日処理する。
おうとう (露地栽培)	6	ジュノハートの適期収穫	専用カラーチャートを利用して収穫する。
	7	ジュノハートにおける摘芽と摘果の併用処理による品質・収量の向上	3月下旬から4月上旬に大きな花芽を花束状短果枝当たり2~3果に摘芽処理し、その後、摘果処理する。
	8	ジュノハートにおける適正摘果	花束状短果枝当たり2果程度とする。
ぶどう (露地栽培)	9	シャインマスカットの若齡樹に対するホルクロフェニクロン液剤(フルメット液剤)散布による花穂発育促進による品質向上	若齡樹(概ね3~6年生)に対して、展葉6~8枚時に2ppmのフルメット液剤を散布する。
ぶどう (露地・施設栽培)	10	シャインマスカットの花穂整形器を活用した花穂整形作業の省力化	ぶどう花穂整形器、又は、ラクカットを利用して「シャインマスカット」の花穂整形作業を実施する。
ぶどう (施設栽培)	11	シャインマスカットにおける被袋による品質向上	被袋は7月下旬~8月上旬に行い、袋は収穫時まで外さない。
もも (露地栽培)	12	モモせん孔細菌病の総合的な防除	モモせん孔細菌病の多発ほ場において、収穫後及び重点防除時期に防除暦に準じて薬剤散布し、また、防風対策を行い、春型枝病斑及び夏型枝病斑を切り取り処分する。
りんご (露地栽培)	13	「ふじ」のわい化密植栽培	「ふじ」を4m×2mで栽植する。
西洋なし (露地栽培)	14	西洋なしの摘果作業時間短縮技術	展葉していない頃(5月上旬)に芽たたきをする。

参考：農作業安全啓発動画



『安全な農作業のために』(農林水産省)



『ここがポイント 農作業事故防止』(日本農村医学会)



本事業は、大鰐町農業再生協議会が市内交付対象者の申請をとりまとめ、国へ申請した後、国における審査・承認を受けて予算の範囲内で執行されるものです。

大鰐町農業再生協議会